

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 7 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2020

課題番号：16K02422

研究課題名(和文) 戦後占領期のカストリ雑誌と同時代の出版文化に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive research on publishing culture of the same period as "Kastori magazine" during the postwar occupation

研究代表者

石川 巧 (ISHIKAWA, Takumi)

立教大学・文学部・教授

研究者番号：60253176

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は戦後占領期の日本で印刷・発行された通俗大衆雑誌、カストリ雑誌を発掘・保存・公開し、データベースを構築するとともに、戦後日本における雑誌出版文化、言論と表現の諸相を分析するものである。占領期に粗悪な再生紙で印刷されたカストリ雑誌は、その通俗性ゆえ図書館にほとんど保存されておらず、GHQ/SCAPが検閲資料として収集したプランゲ文庫や一部の個人コレクションが存在するだけである。本研究ではそうした状況を踏まえ、代表者がこれまでに収集した4000冊余りの雑誌と全国の資料保存機関の所蔵雑誌をもとにカストリ雑誌の全貌を明らかにし、将来、デジタル画像として閲覧できる環境を作るための基礎作業を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究においては、雑誌『妖奇』や『宝石』をはじめとする占領期大衆小説雑誌の復刻出版を進めた。また、戦後占領期の印刷と雑誌出版に関する多くの研究書の編集を行い、その成果を『カストリ雑誌総攬』(2021年刊行予定)にまとめた。また、戦後占領期雑誌に関する統合的な目録及びデータベースの構築し『占領期地方総合文芸雑誌事典』の編集を行った。同事典についても2021年度中の刊行をめざしている。当初は戦後占領期の大衆雑誌に焦点をあてた研究をしていたが、戦争末期における外地日本語雑誌、海軍雑誌などの発見が相次ぎ、結果的に戦中と戦後の出版文化を連続的に捉える研究に軸足が移りつつある。

研究成果の概要(英文)：This study discovers, preserves, and publishes popular magazines published in Japan during the postwar occupation to build a database, and analyzes various aspects of magazine publishing culture, speech, and expression in postwar Japan. Many of the popular magazines printed on poorly recycled paper during the occupation are not stored in the library, only the Prange Collection and some private collections collected by GHQ / SCAP as censorship material. In this study, based on the situation, the whole picture of postwar popular magazines will be clarified based on the more than 4000 magazines collected so far by the applicant and the magazines held by the material storage organizations nationwide, and will be used as digital images in the future. We did the basic work to create an environment where you can browse.

研究分野：日本近代文学

キーワード：大衆雑誌 出版 文学 メディア 復刻 プランゲ文庫 検閲 外地日本語雑誌

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の学術的背景

敗戦により満洲、樺太、朝鮮などにあった製紙・パルプ工場を失った日本は極度の紙不足に陥り、新聞・雑誌の印刷が困難になる。吉田敏和『紙の流通と平田英一郎』(昭和38年3月、紙業タイムス社)が、「21年における紙・板紙・和紙の生産量は4億6千2百50万ポンドに落ちこみ、16年の33億3千8百万ポンドに対し14%弱と惨たんたるもので前途の見通しは全く立たなかった」と伝えるように、当時の日本はまさに「紙飢饉」の状況だった。そうしたなか、GHQ/SCAP(連合軍最高司令部)は「用紙配給に対する新聞及び出版統制団体の統制の排除に関する覚書」(昭和20年10月26日)を発出する。だが、そうした統制にもかかわらず用紙の争奪競争は激しさを増し、大手出版社の多くは石炭や木材を製紙会社に持ち込むバーター制で急場を凌ぐことになる。資本力をもたない新興出版社の多くは、統制外のザラ紙、センカ紙、隠匿紙に飛びつき、粗悪な再生紙が巷に溢れる。昭和21年1月の「リペらる」(大虚堂)を嚆矢とする大衆向けの娯楽・風俗雑誌はこうした風潮のなかで誕生し、活字に飢えた人々の欲望に応え続けることで飛ぶような売れ行きを示すことになる。

カストリ雑誌の定義には諸説あるが、その多くは上記のようなザラ紙、センカ紙を用いたB5の判型であり、32頁～48頁立てであった。急速なインフレ時代ゆえ、価格は10円～40円程度まで大きく変動するが、少なくとも日々の食糧入手に精一杯だった庶民にとっては高価な代物だったと思われる。昭和20年代後半に印刷用紙の生産が安定し、「夫婦生活」(昭和24年6月創刊)をはじめとするB6判の夫婦和合雑誌が登場したことでカストリ雑誌は急速に減少していくが、占領期を通じて恐らく1000種類以上のタイトルが発行されたといわれている。

だが、当時の雑誌は紙質の劣化が著しくデジタル化による資料保存は喫緊の課題となっている。日本中にある資料保存機関のデータベースを調査しても、地方で刊行された雑誌を一括所蔵しているところは殆どなく、いまでは存在自体が忘れられた雑誌さえある。近年、プランゲ文庫の資料が公開され資料へのアクセスが容易になったとはいえ、それらは検閲制度に則して集められたものであり欠号・未収蔵も多い。1950～60年代前半にかけてはプランゲ文庫も収集の対象としていないため散逸の状況が著しい。研究動向としては、「20世紀メディア研究所 占領期メディアデータベース化プロジェクト委員会」(代表/山本武利)が立ちあげたデータベースの運用、20世紀メディア研究所の活動(雑誌「Intelligence」の発行、研究会の継続的な開催)が目覚ましい成果をあげているほか、『占領期雑誌資料体系』(大衆文化編、文学編各5巻・岩波書店)なども刊行されつつあるが、それも基本的にはプランゲ文庫を対象としており、検閲を逃れて発行されたものが多いカストリ雑誌に関しては、その全体像を掌握しきれていないのが現状である。逆にいえば、漏れている領域を補填するところにこそ本申請の研究価値があるといえる。

代表者は、前任校の九州大学に在職中(2002 - 2006年)から福岡市文学館の企画展およびその図録作成に携わり、「余は発見せり 伊達得夫と旧制福高の文学山脈」2002、「本」を創る フクオカ出版物語」2003、「福岡と芥川賞・直木賞」2004、「文学の記憶・福岡1945」2005、などの編集を手掛けてきた。「読売新聞彙報欄 よみうり抄」(「比較社会文化」2006)などの研究も行い、目録やデータベースの作成の経験を積んできた。2006年に立教大学に赴任した後も、「敗戦後の福岡における演劇・芸能復興年表」・戦後雑誌「九州演劇」「四国春秋」「月刊読売」「小説春秋」「黒猫」などの総目次・解題を作成し、雑誌研究はもちろん雑誌情報のデータベース化に関して継続的に取り組んできた。特に「四国春秋」「月刊読売」に関しては、雑誌を新発見した資料であり、新聞や雑誌等でも広く紹介された。今回の研究は、そうした図録作成や目録・データベースの構築が契機となって着想するに至ったものである。

また、占領期の印刷・出版に関する研究として「占領期の福岡における製紙・印刷・出版」(「市史ふくおか」2014)・京都で発行された雑誌「国際女性」を発見してまとめた「雑誌「国際女性」の資料的価値」(「跨境 日本語文学研究」2015)、「幻の雑誌「国際女性」と谷崎潤一郎」(「新潮」2015)、「小説春秋」という雑誌を発見してまとめた「職業作家・松本清張の出版 全集未収録小説「女に憑かれた男」「溪流」を読む」(「大衆文化」2015)があり、現在も新たに発見された雑誌資料の分析作業が続いている。

(2) 研究期間内に何をどこまで明らかにしようとするのか

今回のカストリ雑誌研究は、こうした研究の蓄積を経て取り組むものである。代表者はこの10年余りの間に占領期に発行されたカストリ雑誌4000冊を集め、すでに「被爆者はどこに行ったのか? 占領下の原爆言説をめぐって」(「Intelligence」2013)、「カストリ雑誌異聞」(「東京人」2015)などに研究の端緒を発表している。2015年9月には東京芸術劇場で開催された「戦後池袋 ヤミ市から自由文化都市へ」企画展に2000冊のコレクションを展示し、新聞やTVで大きな反響を得た。

次にこれまでのカストリ雑誌研究の状況について簡潔にまとめておく。占領期のカストリ雑

誌に関しては、現在、国会図書館プランゲ文庫、日本近代文学館、早稲田大学・福島鑄郎コレクション、同志社大学・山本明コレクション、大阪芸術大学コレクション(科学研究費「終戦直後のカストリ雑誌の総合的研究」で収集した資料)がある。だが、国会図書館、日本近代文学館以外の資料はすべて資料の傷みが激しいこと、整理中であることなどを理由に、外部には一般公開されていない。また、古書店などに流通しているカストリ雑誌も現在では稀少価値が出てしまい、発行部数の少ない雑誌については、高価であるばかりか入手困難な状況になっている。したがって、本研究では代表者が個人で収集した4000冊のカストリ雑誌をベースとし、そこに必要なものを追加購入していくことになる。5年間の研究期間中に明らかにする課題は、(1)カストリ雑誌の種類や発行履歴の掌握、(2)主要雑誌の総目次と解題執筆、(3)出版文化という観点からのカストリ雑誌研究、(4)文学テキストの分析、(5)記事内容の分析、(6)挿絵、装幀、画像、デザインなどに関する考察、以上の6点である。

(3) 当該分野における本研究の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義

カストリ雑誌は粗悪な再生紙(ザラ紙、センカ紙、隠匿紙)に印刷されているため、多くの現物はすでに紙がパリパリに砕けたり、劣化によって誌面が判読しにくくなったりしている。また、主要なコレクションは資料の未整理を理由に公開されておらず、古書の市場にもほとんど流れていない。戦後占領期の出版業界復興に大きな役割を果たし、その後の雑誌メディアの発達を促すきっかけとなったカストリ雑誌は、早急にその全体像を掌握してデジタル化しなければ永遠にこの世から葬り去られてしまうだろう。現在、代表者が所有する4000冊は、恐らく個人として最大級のコレクションであり、プランゲ文庫や上述の大学コレクションと併せれば、当時発行されたカストリ雑誌のほとんどを網羅できると考える。また、これまでの諸研究は筆者の関心に基づいて特定の雑誌を焦点化し特徴を分析するスタイルになっており、実際にどのような雑誌がありどのような記事が収録されているのかという総攬的な視点はほとんどない。本研究は、占領期の粗悪な雑誌を発掘・保存し、総目次やデータベースを作成することで雑誌研究の基礎資料を固めようとするところに特徴がある。それは、戦後日本における言説史研究の観点で学術的にも社会的にも大きなインパクトが期待できる。

2. 研究の目的

本研究は戦後占領期(1945 - 1952)の日本で印刷・発行された通俗大衆雑誌、いわゆるカストリ雑誌を発掘・保存・公開し、データベースを構築するとともに、戦後日本における雑誌出版文化および言論と表現の諸相を分析するものである。占領期に粗悪な再生紙で印刷されたカストリ雑誌は、その通俗性ゆえ図書館等にほとんど保存されておらず、GHQ/SCAPが検閲資料として収集したプランゲ文庫や一部の個人コレクションが存在するだけである。本研究では、代表者がこれまでに収集した4000冊余りの雑誌と全国の資料保存機関の所蔵雑誌をもとにカストリ雑誌の全貌を明らかにし、将来、デジタル画像として閲覧できる環境を作るための基礎作業を行う。

3. 研究の方法

研究期間は5年間を予定している。最初の2年間は、すでに研究計画が決まっている内容を推進していくことになる。具体的には、(1)雑誌「妖気」の復刻出版(2016年に三人社より刊行予定)、(2)戦後占領期の印刷と雑誌出版に関する研究書の編集、(3)カストリ雑誌に関する統合的な目録及びデータベースの構築、(4)論文「カストリ雑誌のなかの戦後文学」の執筆が中心である。次の2年間は、(1)地方で発行されたカストリ雑誌の研究、(2)カストリ雑誌の累計と系譜に関する研究、(3)カストリ雑誌に描かれたエロ・グロ・ナンセンス、(4)新発見資料の紹介などを行う。最後の1年間は、日本全国のカストリ雑誌コレクションをデジタル化するための準備期間とし、網羅的なデータベースの構築を行う。

平成28年度の計画

すでに着手している研究の成果として、平成28年度に(1)『近代福岡の印刷と出版』(福岡市史特別編、福岡市史編纂委員会)、(2)『戦後雑誌研究』(金沢文園閣)、(3)『「四国春秋」復刻版 附・解題、総目次』(三人社)が出版される予定になっている。(1)は共著だが、申請者は1945 - 1955年の占領・復興期を担当し、当時の製紙工場の状況、印刷・出版状況などを同時代の資料から検証する。(2)も共著だが、こちらは戦後に日本の各地方で発行された総合雑誌がカストリ雑誌と接近していく過程を論じた論文を掲載予定である。(3)は単著であるが、こちらもやはりカストリ雑誌への接近という観点から解題を執筆している。これらの単行本、復刻版については基本的な構想ができていますが、内容に関しては今後の調査が必要であり、科学研究費の使用による雑誌購入や資料調査を実施したいと考えている。

平成29年度の計画

本格的なカストリ雑誌研究の第一弾として、占領期を通じて発行が続いた「妖気」(昭和22年7月~昭和27年10月、のち「トリック」と改題し昭和27年11月~昭和28年4月、発行はオ

ール・ロマンス社)の復刻版を三人社から出版することが決まっている。こちらは『甦る推理雑誌 傑作選 妖気』(光文社文庫)に総目次と一部の記事が掲載されているため、同書を先行事例として参考にしながらの出版となる。附録として「猟奇」創刊号が復刻されたことはあるが、それ以外にカストリ雑誌全冊が当時の装幀のまま復刻された例はないため、本研究を継続していくためのモデルパターンとなる。「妖気」の研究を通して、そもそもカストリ雑誌とはどういうものを指すのかを定義づけ、占領期のカストリ雑誌の価値と魅力、それを研究することの意義を明らかにしていきたい。また、「りべらる」・「ロマンス」などの著名雑誌から創刊号のみで消えていったマイナー雑誌まで、カストリ雑誌の種類や発行履歴を把握することにもつとめ、年度ごとの変遷にも注目したデータベースの構築を始める。平成 29 年度の終わりからは「カストリ雑誌のなかの戦後文学」という総論的な論文を書き、その後の研究の方向性を定めたい。

平成 30 年度の計画

敗戦直後は首都圏にある印刷会社の多くが罹災したため、地方に拠点を移した出版社が少なくなかった。カストリ雑誌に関しても、東京や大阪以外に静岡、愛知、岐阜、京都、兵庫などで刷られたものが多く、そこで蓄えられた資本と技術がのちの地方出版に活かされていることがわかる。カストリ雑誌は、戦後の地方印刷文化を支えた重要な商品だったのである。平成 30 年以降は、この点に注目し、地方で出版された雑誌とカストリ雑誌の関係を追っていきたいと考えている。また、その過程でカストリ雑誌のタイトル累計と出版社や出版人に関する系譜的な考察も必要になる。カストリ雑誌に描かれたエロ・グロ・ナンセンスの諸相を文学研究の方法で分析する試みも必要になる。斉藤夜居『カストリ考』(此見亭書屋発行・私家版、1964)は、カストリ雑誌に掲載される小説の題材について、(1)恋愛の発展に伴う男女の肉交場面をモチーフにしたもの、(2)娼婦(公娼・私娼・街娼)との性交渉を描写したもの、(3)肉親、近親者との性行為を目撃した少年を主人公にしたもの、或いは以上の主件を作品の重要場面としたもの、(4)姦通場面の描写を主題としたもの、(5)性的なあらゆる事柄に対する好奇心をテーマとしたもの、(6)戦時下に於ける当時の隠された「性」をテーマとしたもの、軍人未亡人や、当時の一般に知られていなかった性犯罪もの、(7)市井の凡人の性的自伝もの、(8)敗戦後の性風俗を主題としたもの、(9)戦争中の外地生活の情事を主題としたものに分類できると述べており、その後の研究動向においてもそうした認識が基本になっているが、本研究では、読物、娯楽、風俗、実話、話題、犯罪、探偵といったテーマでその特徴を分類し、昭和 21 年以降における年度ごとの変遷にも注目する。

令和 1 年度の計画

4 年目以降は、カストリ雑誌に掲載された著名作家の新発見資料を広く紹介することに努める。カストリ雑誌には著名作家の作品でありながら全集や単行本はもちろん、当該作家の著作目録などにも記載のない新発見資料が数多く掲載されている(現段階で、すでに数百点の作品が発見されている)。研究期間の後半では、文学研究の一環としてそうした作品の分析を行い、戦後占領期の文学史を塗り替えていきたいと考えている。

令和 2 年度の計画

最終年度は、以下の 3 項目に取り組んで 5 年間の成果をまとめ、さらなるステップとしたい。

(1) ブランゲ文庫を補填するデータベースの構築

占領期の雑誌・新聞研究に関しては、メリーランド大学のブランゲ文庫が質量ともに圧倒的なコレクションになっている。しかし、これらは基本的にブランゲ文庫に依存するかたちで研究が進められており、検閲の対象とならなかつたり、継続的な発行がなされていなかったりした資料は収集されていない。本研究は、これまで顧みられなかったカストリ雑誌を可能な限り収集・調査することによって、占領期の雑誌研究の弱点を補うとともに、検閲制度の外側で展開された言論・表現を系統的にたどる点で、これまでの雑誌研究が把握しきれなかった領域を開拓する画期的な研究になる。

(2) 劣化が著しい雑誌の保存・公開に関する研究

代表者は 2008 - 2012 年度にかけて立教大学図書館長を経験するとともに、2011 - 2012 年度にかけては私立大学図書館協会会長を務めた関係で、図書館のライブラリアンや図書館学の専門家とも親しく交わるとともに、図書館資料に関する研究会「文脈の会」などにも参加して雑誌の保存・管理に関する知見を深めてきた。本研究ではその経験を活かし、雑誌研究に関する研究会・シンポジウムを開催するとともに、早稲田大学図書館、同志社大学図書館などの協力を得ながら劣化の激しいカストリ雑誌の保存方法を検討していく。また、「20 世紀メディア情報データベース」(20 世紀メディア研究所)などとの連携による検索システムの構築、立教大学リポジトリ等を活用したデジタル画像の公開などを図る。

(3) デジタルアーカイブの製作準備

本研究は、全国に散逸している貴重なカストリ雑誌の収集によって、現在所有している分と併せて約 6000 冊のコレクションを構築する予定になっている。最終年度には、貴重雑誌を後世に

残し学術研究の進展に寄与するという本課題の目的を再確認し、多くの研究者が同資料にアクセスできる環境を整えるとともに、共同研究というかたちで新たな研究構想を立ち上げていく予定である。

4. 研究成果

代表者は、この間、戦中から戦後占領期にかけての稀覯雑誌発掘を研究テーマのひとつとしており、これまでに以下のタイトルに関する復刻版の出版、解題執筆などを行っている。

総合雑誌『月刊読売』附解題、総目次』(単編著、三人社、2014~2016)『四国春秋』附解題、総目次』(単編著、三人社、2015~2016)『月刊さきがけ』附解題、総目次』(単編著、三人社、2017~2018)『サンライズ』(函館新聞社)附解題、総目次』(単編著、三人社、2020)『新生活』附解題、総目次』(単編著、三人社、2018)

探偵小説雑誌『黒猫』附解題、総目次』(単編著、三人社、2014)『妖奇』附解題、総目次』(共編著、三人社、2016~2018)『探偵新聞』附解題』(金沢文圃閣、2021年刊行予定)

女性雑誌『国際女性』附解題、総目次』(単編著、金沢文圃閣、2017)

国策雑誌『海軍外郭団体雑誌』『くろがね』附解題、総目次』(単編著、金沢文圃閣、2018)

外地雑誌『晋風』 『蟻の兵隊』たちのコミュニティ雑誌』(単編著、金沢文圃閣、2020)

いずれも図書館や文学館にはほとんど収蔵されていないタイトルであり、復刻版が刊行されるまでは存在そのものが知られていなかったものも少なくない。戦時中に中国の北京で発行されていた『月刊毎日』、原節子のエッセイを収録する『想苑』、カストリ雑誌の末裔ともいえる『小説春秋』、福岡の印刷業界誌『紙と印刷』、演劇雑誌『九州演劇』などを発掘し総目次の作成と解題の執筆を行った。なかでも『国際女性』、『月刊毎日』、『想苑』に関する研究は文芸雑誌『新潮』で特集されたのち『幻の戦時下文学』(青土社、2019)、『幻の雑誌が語る戦争』(青土社、2017)として単行本化されている。メディアでも新発見資料として広く報道され、様々な反響をいただいた。さらに、2018年には研究成果を博士学位申請論文「戦中・戦後の稀覯雑誌と出版文化に関する研究」(総合研究大学院大学、審査委員：劉建輝、坪井秀人、細川周平、紅野謙介、成田龍一)にまとめ博士(学術)の学位を得た。戦後の出版文化研究に関しては『高度成長期の出版社調査事典』(単編著、金沢文圃閣、2014~2016)『活字メディアの時代 近代福岡の印刷と出版』(有馬学、石川巧、梅本真央、加峰三枝子、坂口博、首藤卓茂、田代ゆき、谷智子、茶園梨加、永島広紀、波瀾剛、松本常彦共編著、福岡市史編纂委員会、2017)を刊行している。

これらの復刻作業を通じて得られた知見は戦後出版文化研究にも活かし、その成果を石川巧・落合教幸・金子明雄・川崎賢子編『江戸川乱歩新世紀 越境する探偵小説』(ひつじ書房、2019) 坪井秀人編『戦後日本を読みかえる3 高度経済成長期の時代』(臨川書院、2019) 井川充雄・石川巧・中村秀之編『ヤミ市 文化論』(ひつじ書房、2017) 小澤実編『近代日本の偽史言説 歴史語りのインテレクチュアル・ヒストリー』(勉誠出版、2017) 石川巧・川口隆行編『戦争を読む』(ひつじ書房、2013)に反映させている。論文としては「手帖抄」日本人を叱る原節子」(『新潮』114-1、2017)、「カストリ雑誌研究の現在」(『Intelligence』17、2017)、「谷崎潤一郎と占領期文化雑誌「国際女性」との関わりから」(五味淵典嗣・日高佳紀編『谷崎潤一郎読本』翰林書房、2016)、「徹底検証『月刊毎日』とは何か」(『新潮』113-2、2016)、「幻の雑誌『国際女性』と谷崎潤一郎」(『新潮』112-5、2015)、「雑誌『国際女性』の資料的価値」(『跨境 日本語文学研究』2、2015)、「講演記録 戦後占領期の福岡における雑誌出版」(『市史研究ふくおか』11、2015)、「雑誌『小説春秋』はなぜ歴史の後景に消えたのか? 附・総目次」(『敍説』10、2013)などを執筆している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 石川巧	4. 巻 17
2. 論文標題 師 / 弟小説としての「微笑」 栖方の微笑はなぜ「美しい」のか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 紋説	6. 最初と最後の頁 12-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 石川巧	4. 巻 123
2. 論文標題 江戸川乱歩「人間椅子」はどのように書かれているか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 立教大学日本文学	6. 最初と最後の頁 25-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 石川巧	4. 巻 19
2. 論文標題 戦時下の北京における出版物取締と雑誌『月刊毎日』	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大衆文化	6. 最初と最後の頁 33-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 石川巧	4. 巻 5
2. 論文標題 ひとりひとりの死を弔うために 長谷川四郎「小さな礼拝堂」論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 跨境	6. 最初と最後の頁 153-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川巧	4. 巻 110
2. 論文標題 カストリ雑誌研究の現在	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本学報	6. 最初と最後の頁 21-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川巧	4. 巻 12
2. 論文標題 雑誌「新生活」を読む 新発見資料の紹介	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本近代文学年誌 資料探索	6. 最初と最後の頁 42-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石川巧	4. 巻 114 - 1
2. 論文標題 日本人を叱る原節子	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 新潮	6. 最初と最後の頁 230-236
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 2件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 石川巧
2. 発表標題 戦時下における 人文知 夢野久作が描いた 東亜 とその未来
3. 学会等名 台湾日本語文学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川巧
2. 発表標題 闘争 と 運動 の狭間で 「山谷 やられたらやりかえせ」を読む
3. 学会等名 国際日本文化研究センター共同研究プロジェクト
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 天野知幸・飯田祐子・石川巧
2. 発表標題 混淆する身体 「混血児」と引揚者をめぐる文学表象
3. 学会等名 日本近代文学会東海支部大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石川巧・落合教幸・金子明雄・川崎賢子
2. 発表標題 江戸川乱歩所蔵資料の活用による探偵小説研究
3. 学会等名 日本近代文学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川巧
2. 発表標題 戦時下の北京における出版物取締と雑誌『月刊毎日』
3. 学会等名 日韓学術交流会（高麗大学校）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川巧
2. 発表標題 大阪万博と高度経済成長期の文学
3. 学会等名 川端康成文学館公開文学講座
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川巧
2. 発表標題 戦時下の外地日本語雑誌を研究することの意義
3. 学会等名 韓国日本近代学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石川巧
2. 発表標題 ひとりひとりの死を弔うために 長谷川四郎「小さな礼拝堂」論
3. 学会等名 東アジアと同時代日本語文学フォーラム（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 石川巧
2. 発表標題 占領期カストリ雑誌研究の現在
3. 学会等名 韓国日本学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 河野貴美子、Wiebke DENECKE、新川登亀男、陣野英則編 執筆者：染谷智幸、田中康二、土田健次郎、レベッカ・クレメンツ、千葉謙悟、鈴木健一、金文京、日比嘉高、石川巧（他）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 607（478-481）
3. 書名 日本「文」学史 第三冊 「文」から「文学」へ 東アジアの文学を見直す	

1. 著者名 石川巧	4. 発行年 2019年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 400
3. 書名 幻の戦時下文学 『月刊毎日』傑作選	

1. 著者名 石川巧（編著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 1800
3. 書名 海軍外郭団体雑誌『くろがね』復刻版	

1. 著者名 石川巧（編著）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 800
3. 書名 『新生活』復刻版	

1. 著者名 石川巧・落合教幸・金子明雄・川崎賢子（共編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 348
3. 書名 江戸川乱歩新世紀	

1. 著者名 石川巧	4. 発行年 2017年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 320
3. 書名 幻の雑誌が語る戦争	

1. 著者名 石川巧	4. 発行年 2017年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 2200
3. 書名 「月刊さきがけ」復刻版 全5巻 + 解題・総目次	

1. 著者名 小澤実編 石川巧（共著）	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 375
3. 書名 近代日本の偽史言説 歴史語りのインテレクチュアル・ヒストリー	

1. 著者名 石川巧	4. 発行年 2017年
2. 出版社 金沢文圃閣	5. 総ページ数 370
3. 書名 「国際女性」復刻版	

1. 著者名 石川巧・浜田雄介	4. 発行年 2016年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 1800
3. 書名 「妖奇」復刻版	

1. 著者名 石川巧	4. 発行年 2016年
2. 出版社 三人社	5. 総ページ数 1500
3. 書名 「四国春秋」復刻版	

1. 著者名 井川充雄、石川巧、中村秀之他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 321(2-29、222-249)
3. 書名 ヤミ市 文化論	

1. 著者名 五味淵嗣典、日高佳紀、石川巧他	4. 発行年 2016年
2. 出版社 翰林書房	5. 総ページ数 355 (185-195)
3. 書名 谷崎潤一郎読本	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------